

# 集団信念の正当化：「知りえること」との関係から考える

岸 哲生 (Kishi Tetsuo)

大阪大学人間科学研究科

「本発表では、知識第一主義と社会認識論を組み合わせた「社会化された知識第一主義」を用いて科学的知識の分析を試みる。

20世紀後半の認識論においては「正当化された真なる信念」(Gettier 1963)という、エドモンド・ゲティアに始まる知識概念の分析を洗練させることで、個人に帰属する知識について概念分析を行うことが主流であった。しかし近年、個人に帰属する信念の正当化 (justification) を分析する議論において、信念の正当化という概念を知識概念によって説明することを目指す「知識第一主義 (Knowledge-First Epistemology)」(Williamson 2000) が注目されている。

一方で社会認識論では、1980年代から認識論の社会化という潮流が支持を集めるようになり、社会的に共有された知に対する概念分析が行われるようになった (cf. Goldman 1986)。社会認識論では個人から社会へ知識を保持する主体を拡張するために、社会に帰属する知識をその社会の中の専門家たちの知識の集積とみなす集積主義 (summativism) の立場が支持されている。

こうした背景を受け、2020年代に入り、知識第一主義の正当化概念を社会化する試みが始まっている。知識第一主義における代表的な論者の一人であるアレクサンダー・バードは、2024年6月に社会化された正当化理論を提案した (Bird 2024)。しかしこの理論は、社会が自身の集団信念の正当性を何らかの形で知ることができるという、明輝性 (luminosity) を説明することができていない。

社会的に共有された信念 (集団信念) の正当化を概念的に説明するためには、正当化された信念を持った社会が、正当化の明輝性を持つ必要があると思われる。

そこで、本発表では、not-K not-K アプローチ (Rosenkranz 2018) を検討し、社会化された知識第一主義への展望を述べる。not-K not-K アプローチは、ある信念が正当化されているとは、「その信念を知る立場にないことを知る立場にない」ということだと定義しようとするアプローチである。正当化概念には、特定の命題について信念を持つことを正当化の必要条件とするドクサ的正当化と、認識主体が実際にはその信念を持っていなくても成り立つ信念的正当化の2種類がある。ローゼンクランツは後者の正当化概念に、共通する特徴があることを指摘した。それが、正当化の次の定式化である (以下では Rosenkranz 2018 の論理式をパラフレーズした)。

$(\neg K \neg K) S$  が  $p$  を信じる正当性があるのは、 $S$  が  $p$  を知る立場にないと  $S$  が知る立場にない場合であり、その場合に限る。

何かを「知る立場にある」とは、その何かを知ることができるということである。例えば、新悪霊事例 (Lehrer & Cohen 1983) のように、悪霊によって水槽の中の脳にされてしまった認識主体は、もはや自分の周囲の環境がどうなっているのか知ることができない。こうした場合、認識主体は周囲の環境がどうなっているのかを「知る立場にない」という。

( $\neg K \rightarrow K$ )として定式化された正当化概念は、集団信念の正当化を説明する上でも有用であるように思われる。例えば、ある科学的命題に対する反証事例が存在する場合、我々の科学的信念は正当化されているかどうか、 $\text{not}\cdot K \text{ not}\cdot K$ アプローチを社会化することにより、説明することができるように思われる。この展望については、本発表で詳細を述べる。

#### 参考文献

- Bird, A. (2007). Justified judging. *Philosophy and Phenomenological Research*, 74(1), 81-110.
- Gettier, E. (1963). Is Justified True Belief Knowledge?, *Analysis*, 23(6), 121–123.
- Goldman, A. (1986). *Epistemology and Cognition*, Harvard University Press.
- Lehrer, K., & Cohen, S. (1983). Justification, truth, and coherence. *Synthese*, 55, 191-207.
- Rosenkranz, S. (2018). The structure of justification. *Mind*, 127(506), 309-338.
- Williamson, T., 2000, *Knowledge and its Limits*, Oxford University Press.